

災害ピクトグラムPR

さん太ギャラリー展示始まる

制作経緯説明や新図案も

災害時の避難誘導に役立てようと、岡山市消防局と川崎医療福祉大が共同で開発を進める「災害対応ピクトグラム(絵文字)」を紹介する展示会が31日、岡山市北区柳町の山陽



ピクトグラムの制作経緯を説明したパネルが並んだ会場

新聞社さん太ギャラリーで始まった。9月5日まで。

ピクトグラムは、混乱しがちな災害現場などで言葉とマークで行動を促す絵文字で、言語や障害の有無にかかわらず誰にでも分かりやすい表現が特徴。展示会は同大医療福祉デザイン学科が認知度を高めようと企画した。会場では、手を挙げた人と歩み寄る人が描かれた「歩いてこちら

へ」、治療の優先順を決めるトリアージ用の「タグをつける」などの絵文字の制作経緯をパネルで説明。「歩いて…」のマークがある円柱型のバルーンタイプ(高さ約3メートル、直径約90センチ)の資機材のほか、新型コロナウイルス禍の避難所で手指消毒やマスク着用を促す開発中の図案も並ぶ。訪れた人は感心したように足を止め、西日本豪雨で被災したという倉敷市真備町辻田の板谷都さん(66)は「災害時は誰もが混乱しやすい。みんなに伝わりやすいピクトグラムは役立つと思う」と話していた。

午前10時～午後6時(最終日は同4時まで)。入場無料。

(谷本晴)